

東北地連第40回定期大会

震災・倒産乗り越え職場を守った事に敬意 特措法改正でタクシー産業を活性化

(福島地本)

2014年06月02日 東北地連第40回定期大会を開きました。

東北地方の6地連・地本で構成する全自交東北地連（森茂委員長）は、6月2日、福島県猪苗代町で第40回定期大会を開きました。

大会には、全自交労連の伊藤実委員長をはじめ、連合福島、福島県交運労協、全労済福島県本部から4名が来賓として出席しました。また、春闘交渉が続く中、東北各地から80名の代議員・オブザーバーが参加しました。

大会の冒頭、森茂委員長が主催者を代表して挨拶し、大震災から3年が過ぎたが被災地の復興は道半ばである現状を述べ「安倍首相は、福島の汚染水は完全にブロックしていると言うが、多くの避難者はふるさとに戻れない状況だ」「東北の自治体のほとんどが消滅の危機にあり、国をあげた対策が必要」と訴えながら、特措法改正を活かして東北地方のタクシー産業を活性化する事を訴えました。

激励の挨拶に立った伊藤中央執行委員長は、倒産を乗り越え職場を確保した黒石タクシーと震災から甦った釜石タクシーの取り組みに敬意を表しながら、公定幅運賃の導入後も深夜割増の廃止問題やMKの運賃変更命令差し止め訴訟で国が敗訴し、即時抗告した問題を報告。また、多くの地域が特定地域に指定されるよう働き掛けを強める考えを示しました。さらに「集团的自衛権の容認と労働法制の改悪は許さない」と安倍政権を厳しく批判しました。

その後、鈴木書記長が春闘状況や東北運輸局交渉等の活動報告を行うとともに、各地連・地本から特徴的な取り組みが報告されました。新年度運動方針に関しては、労働条件の改善、政策闘争の強化、平和運動の推進、組織拡大の取り組み強化が提案され、活発な討論をまとめながら満場一致で執行部案を採択されました。その後、役員改選が行われ、森委員長、鈴木書記長ら8名の役員を選出しました。大会の最後に森委員長の音頭で元気に「ガンバロウ」を三唱して大会を終了しました。

続く3日には同会場で政策セミナーを開催し、講師の高橋学書記次長が「改正タクシー法を活かし現状改善へ」と題して講演し、「附帯決議を履行させ、労組こそ協議会の議論をリードし、厳しい環境を改善しよう」「労組の基本活動や産別組織の役割を再確認し、職場確保、組織拡大に全力をあげよう」と呼びかけました。その後、登録制や消費税増税分の運賃転嫁等について討論を深めました。

参加者は東北地連の団結を強化し、環境改善に奮闘する決意を確認しながら、セミナーを終了しました。